持続可能な開発目標 (SDGs) 達成に貢献する原子力科学技術

2019 年 6 月 10 日 一般社団法人 日本原子力産業協会 理事長 高橋 明男

本年6月28~29日に日本が議長国となり開催されるG20大阪サミットでは、持続可能な開発目標(SDGs)を中心とした開発・地球規模課題への貢献について議論される予定である。SDGs とは、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会を2030年までに実現するための国際目標である(別添参照)。2015年、国連総会で「持続可能な開発のための2030アジェンダ」として採択された。G20は、翌2016年に「2030アジェンダに関するG20行動計画」を定め、メンバー各国がSDGsの達成に取り組んでいる。わが国は、2016年に内閣に設置した「持続可能な開発目標(SDGs)推進本部」において具体的なガイドラインとしてSDGs 実施指針を策定し、さらにアクションプランを公表して主要な取り組みを進めている。

SDGs では 17 の目標が設定されているが、このうち特に、飢餓、保健、水・衛生、エネルギー、イノベーション、気候変動、海洋資源、陸上資源、実施手段の 9 つの分野で原子力科学技術が大きな役割を果たしている。

この 9 つの分野で、「平和と開発のための原子力」を掲げる国際原子力機関 (IAEA) がいかに貢献し、加盟国に対して積極的な支援を行っているかについて、本年 4 月の第 52 回原産年次大会で IAEA のナジャト・モクタール事務次長から具体的な紹介があった。たとえば、原子力発電のほかに、放射線照射や放射性同位体を用いて、土壌の肥沃度改善と効率的な水管理、作物の品種改良、アフリカ豚コレラや鳥インフルエンザの早期発見、害虫の不妊化、食品の生産地のトレース、がん治療など医療への応用、放射性医薬品供給、工業・産業分野での利用、大気汚染対策、海洋・土壌等の環境影響調査などを行っている。

これら SDGs の達成に向け原子力科学技術を引き続き活用していくためには、 将来を担う世代の人材の確保・育成が必要であり、また国民の放射線についての 正しい理解が欠かせない。

当協会は、<u>原子力人材育成ネットワーク</u>(参加 79 機関)等を通じて人材確保・ 育成に努めるとともに、放射線に対する理解が深まるよう分かり易い情報の発 信に努め、SDGs 達成を後押ししてまいりたい。

「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)」について

持続可能な開発目標 (SDGs) 1 とは、2001 年に策定されたミレニアム開発目標 (MDGs) 2 の後継として、2015 年 9 月の国連サミットで採択された「持続可能な開

発のための 2030 アジェンダ」 3に記載された 2030 年までの国際目標である。持続可能な世界を実現するための 17 のゴール・169 のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない(leave no one behind)ことを誓っている。

国連に加盟するすべての国は、全会一致で採択したアジェンダをもとに、2030年までに、貧困や飢餓、エネルギー、気候変動、平和的社会など、持続可能な開発のための諸目標を達成すべく力を尽くす。日本としても積極的に取り組んでいる⁴。



SDGs 関連日程

- 2015 年 9 月 国連サミットで「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」を採択、持続可能な開発目標(SDGs)を策定
- 2016年5月 内閣に SDGs 推進本部を設置
- 2016年5月 SDGs 採択後初となる G7 伊勢志摩サミットを開催
- 2016 年 9 月 G20 杭州サミットにて、「持続可能な開発のための 2030 アジェンダに 関する G20 行動計画」に合意
- 2016 年 12 月 SDGs 推進本部にて『SDGs 実施指針』を策定
- 2017年7月 第1回自発的国家レビュー実施、国連ハイレベル政治フォーラムにて発表
- 2017年12月 『SDGs アクションプラン 2018』を公表、第1回「ジャパン SDGs アワード」の開催
- 2018 年 12 月 『SDGs アクションプラン 2019』を公表、第 2 回「ジャパン SDGs アワード」の開催
- 2019年6月 G20大阪サミット開催
- 2019年8月 第7回アフリカ開発会議(TICAD7)開催(横浜)
- 2019年9月 SDGs 首脳級会合開催(国連総会時)
- 2019 年後半 『SDGs 実施指針』を改訂予定

https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/

- ² 外務省「ミレニアム開発目標(MDGs)」 https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/doukou/mdgs.htm
- ³ 外務省仮訳 https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/000101402.pdf
- 4 外務省「日本の取り組み」 https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/000270587.pdf

¹ 国際連合広報センター

SDGs 17 の目標





目標1(貧困)

あらゆる場所あらゆる形態の貧困を終わらせる

目標2(飢餓)

飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養の改善を実現し、持続可能な農業を促進する

目標3(保健)

あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する

目標4(教育)

すべての人々に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進 する

目標5(ジェンダー)

ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行なう

目標6(水・衛生)

すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する

目標7(エネルギー)

すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的なエネルギーへのアクセスを確保する

目標8(経済成長と雇用)

包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用を促進する

目標9(イノベーション)

強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及び イノベーションの推進を図る

目標10(不平等)

国内及び各国家間の不平等を是正する

目標11(持続可能な都市)

包摂的で安全かつ強靭(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する

目標12(持続可能な消費と生産)

持続可能な消費生産形態を確保する

目標13(気候変動)

気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる

目標14(海洋資源)

持続可能な開発のために、海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する

目標15(陸上資源)

陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠 化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する

目標16(平和)

持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法への アクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制 度を構築する

目標17(実施手段)

持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活 性化する

日本の「SDGs 実施指針」「における 8 つの優先課題

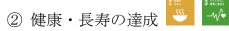






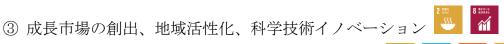




















④ 持続可能で強靭な国土と質の高いインフラの整備







- ⑤ 省エネ·再エネ、気候変動対策、循環型社会







- ⑥ 生物多様性、森林、海洋等の環境の保全
- ⑧ SDGs 実施推進の体制と手段 ●

⁵ 持続可能な開発目標(SDGs)推進本部 https://www.kantei.go.jp/jp/singi/sdgs/